

「この一年間を振り返って」



青少年交流センター

所長 山手 正史

寒さも緩み穏やかな一日となった2月下旬のある日、久しぶりに敷地内を巡回していたら、体育館脇の西側斜面にふきのとうが一面に芽を出していた。春が間近であることを感じながら、あっという間に一年が経ったと改めて思った。この一年間の主催事業について、心に残っているものをいくつか紹介したい。

○20周年に向けてGO！ 創立10周年

開設11年目を迎え創立10周年記念事業を行った。事業は記念式典、記念講演、記念祝賀会、記念誌発行等である。記念式典が始まり修礼、あっ音響がおかしい。係が再チャレンジするがうまくいかない。音響機器のトラブルである。場は一瞬時間が止まったようになり、いったいどうなるだろうという不安がよぎった。しかし、職員が冷静に対応し式典は予定通り進んだ。原因が何であったのかは別として、予想しないことが起こりうることを痛感させられた。10年が過ぎ所内の機器管理にも気を配らなければならない時期に来ていると感じた。

式典終了後、本県出身である文部科学省青少年体験活動推進専門官の小野保氏から、「青少年の現状と課題」と題し講演をいただいた。講演の中で20周年に向けて当センターに期待することとして、「ゆうスペース」や「なまはげキャンプ」など青少年を支援する事業の推進と、参加者を待つ事業から積極的に参加者を求める事業への挑戦を挙げていただいた。今後、主催事業を企画する上で大事な視点になると考えている。

○雨に打たれながらも楽しい「ステップアップキャンプ」

夏休み2泊3日の日程で、大館少年自然の家を会場に高校生体験活動「ステップアップキャンプ」を開催。登山が計画されている2日目に視察を兼ね参加した。以前、ある高校に勤務していたとき毎年登山があった。学校から山頂まで片道3時間のコース。途中下界を見下ろせる箇所はほとんどなく、ただ黙々と山頂を目指して登るだけだった。でも、心地よい汗をかき、山頂から望む景色の美しさは格別なものがあつた。今回も密かにそのことを期待していた。

鳳凰山は標高約520m、片道約2時間のコース。朝から雲行きが怪しい状況であつたが、実施することにした。歩き始めると、登山道は比較的幅が広く登りやすい。それでも、片側が断崖になつて箇所もあり油断できないと思つた。一人の男子生徒が集団から後れ始めたため、大館少年自然の家の職員や県立大学ボランティアサークル「遊縁ん家」の学生と一緒に3人でサポートした。途中、石に足を取られ転び、膝を擦りむいたためカットバンで応急処置。足取りが重く弱気になることもあつたが、休憩を取ったり、励ましの声を掛けながら無事に山頂へ辿り着いた。生徒は息を弾ませながら汗を一杯かいていたが表情には無事辿り着いた安堵感と達成できた喜びが溢れていた。山頂では全員で記念撮影。大館市内を一望し、美味しいおにぎりを食べながら、皆笑みを浮かべていた。

私たちの昼食の終わるのを待っていたかのように、雨が降り始め、次第に雨あしは強くなつた。びしょ濡れになりながらも全員が下山できたことは嬉しかった。この登山によって参加した高校生の仲間意識がさらに深まったように感じられた。

○「なまはげキャンプ」とことん山の絶景！

国の委託事業である青少年体験活動総合プラン「なまはげキャンプ」は、北秋田市で行つた6泊7日の「メインキャンプ」を中心に県内5か所で開催した。10月下旬、湯沢市とことん山キャンプ場で行つた「チャレンジキャンプ(県南地区)」の2日目を視察した。

この日は晴天に恵まれ、紅葉が見頃を迎えた小安峡を散策。村に沿って流れる美しい渓谷とのどかな自然は、参加者の心を癒してくれたに違いない。渓谷の湯煙と色鮮やかな絶景を観賞後、農業体験のため一路スタートラインの農場へ向かつた。湯沢市の中心街に入る手前で左折し、墓地公園の駐車場へ入つた。なぜ墓地公園なのかと思つたが、その理由はすぐに分かつた。駐車場から数十メートル離れたところに農場があり、採つたキクイモの調理実習としゃべり場のできる施設があり好都合であつた。プロの調理人によるキクイモを使った料理はどれも美味しく、恒例のしゃべり場では、それぞれの思いを率直に出し合い、時の経つのを忘れるくらい盛り上がった。

「メインキャンプ」や「チャレンジキャンプ」などを通して、参加した青少年の活動や会話、表情などを見ていると、自分で考えて、課題解決に向けて取り組もうとする積極的な姿勢がうかがえた。この調子でゆっくりと着実に自立に向かって歩んでほしいと願うばかりである。

○アンニョンハセヨ！！ 韓(平澤市)・日(秋田県)青少年リーダー国際交流会

昨年8月、県内の青少年教育施設を視察するため、韓国の平澤(ピョンテク)市青少年団体協議会の代表者10人が来県した。その際、本県と平澤市の青少年交流活動が提案され、後日、財団法人秋田県青年会館との連携事業として実施することになった。

2月18日ソウル便にて、平澤市の高校生21人と引率者2人が元気に到着。昼食後、新屋高校を訪問。授業参観、生徒会との交流、部活動を見学した後、吹奏楽部によるミニコンサートで交流ムードは最高潮に達し、心温まる歓迎ぶりに大変感激した。

2日目は、なまはげ伝承館訪問後、午後から高校生リーダー養成「ニューリーダーセミナー」に参加した県内高校生56人との交流を行った。アイスブレイクでは、韓国高校生のパワーに圧倒されていたが、終わるころにはすっかりうち解けあっていた。仲良くなったところで、韓国高校生活動報告会を開催。韓国の高校、高校の進路指導、部活動について、3人の代表がパワーポイントを使って紹介してくれた。上手な日本語による説明や分かりやすくまとめられた映像を見ていて、一生懸命伝えようとする熱意が伝わりジーンとくるものがあった。この日は、同部屋での宿泊となり夜遅くまで親睦を深め合っていた。

3日目、4日目は、保呂羽山少年自然の家を会場に横手市ジュニアリーダーとともに、そり滑りや紙風船作り、こけし絵づけなどの体験を通じた交流が行われた。秋田市に戻り、県立博物館と県立図書館を見学後、一路秋田温泉さしみへ。秋田温泉では、生け花の実演を見学し、全員浴衣に着替え、温泉を満喫。滞在中の疲れを癒しリフレッシュしていた。

最終日、イオンモール秋田で買い物タイム。時間ぎりぎりまで店内を駆け回っていた。参加した県内の高校生、中学生にたくさんの感動と貴重な経験を与えてくれた韓国の高校生たちは、全日程を無事終了し秋田空港から帰路に着いた。カムサハムニダ！

今回の国際交流会は、様々な活動を通して相互理解が深まり、事業のねらいは概ね達成できた。交流事業に参加した生徒から、今度韓国に行きたくて交流したいという声が多く寄せられた。今回の交流にかかわった団体や学校などとも連携しながら、韓国での交流実施に向けて検討したい。

このほかの主催事業についても、参加した青少年の喜ぶ姿を数多く見る事ができた。

次年度も、いろいろな人たちとの出会いを創出し、よりよい人間関係づくりを推進するとともに、青少年に喜び、感動、楽しさを提供できる事業の展開に努めてまいりたい。

平成22年度 青少年交流センター主催事業一覧(予定)

学校外教育活動支援事業	高校生徒会交流会議	・県内の生徒会役員が一堂に会し、充実した生徒会活動を推進するための情報交換を行い、生徒会のネットワーク形成を図ります。	5月23日(日)～24日(月) 場所: 青少年交流センター
	ニューリーダーセミナー	・様々な高校生リーダーが集い、充実した活動を推進するための研修と情報交換を行い、必要な資質の向上を図ります。	11月21日(日)～22日(月) 場所: 青少年交流センター
青少年の自立	対人関係向上セミナー	・よりよい人間関係を創っていくための方法などを体験学習を通して学び、コミュニケーション能力の向上を図ります。	6月19日(土)～20(日) ・場所: 青少年交流センター
	ユースボランティア交流会	・青少年ボランティアグループの活動活性化のために相互の交流を図るとともに、充実した活動を行うための資質の向上を図ります。	7月10日(土)～11(日) ・場所: 岩城少年自然の家
	ユースパルまつり・秋田ユースアクション	・青少年の社会参加を促進するために当センターを開放し、活動や発表の機会を提供するとともに青少年及び団体スタッフの交流を図ります。	8月29(日) ・場所: 青少年交流センター

<p>青少年体験活動総合プラン「なまはげキャンプ」</p>	<p>・対人関係の苦手な青少年に、キャンプを通して自主性や社会性を育て、心身ともに健康な生活ができるきっかけづくりを行います。</p>	<p>①セミナーキャンプⅠ(7月14日～16日) 場所: 青少年交流センター ②メインキャンプⅠ(9月11日～17日) 場所: 大仙市・男鹿市 ③チャレンジキャンプ(11月9日～12日) 場所: 青少年交流センター ④メインキャンプⅡ(1月16日～19日) 場所: 湯沢市</p>
<p>ユース社会参加活動セミナー</p>	<p>・社会人としての心がまえやボランティアなどの社会貢献について考え、社会参加活動の促進に必要な基礎的な知識の習得を図ります。</p>	<p>2月5日(土)～6日(日) 場所: 青少年交流センター</p>
<p>ゆうスペース開設</p>	<p>・青少年の継続的活動の場として居場所を開設し、ボランティア団体等と協力して相談活動等多様な活動を行い、青少年の健全育成を図ります。</p>	<p>通年 場所: 青少年交流センター</p>

平成22年度もよろしくお願いたします。

職場見学・職場体験学習受け入れ可能先一覧(H22用)は、

ホームページをご覧ください。地図も更新しています。

年度末の主催事業から

高校生リーダー養成「ニューリーダーセミナー」



2月19日(金)～20日(土)、1泊2日の日程で行いました。今回のセミナー参加者は、県内高校生56人(26校)でした。19日は韓日青少年リーダー国際交流会に参加している平澤市内高校生21人も加わり計87人のリーダーセミナーとなりました。

初日は、ヤートセ秋田実行委員会事務局長の高橋淳一氏から「目的意識の共有」という題で講演がありました。続いて韓国の高校生が合流し、アイスブレイクでお互いの顔と名前を覚え合うネームツスを行いました。次に、韓国高校生生活発表会を行い、「韓国の高校について」「高校での進路指導について」「部活動について」の3つの発表がありました。続いて、1グループ4～5人、日韓混合でブロックモデルを行いました。別室に予め用意されたブロックモデルと同じ物を作るという単純な作業ですが、各グループから一人ずつしか見に行くことができない(交代可)ことから、モデルの情報を伝え合うために身振り手振りで、英語を交えながら進めて行きました。

2日目は、「複数校で協力」「今すぐにでも実施可能」をキーワードに、5～6人のグループに分かれて話し合い、発表会を開きました。内容としてはボランティア関係の活動に取り組みたいというグループが多かったです。また、みんなで盛り上がるためのイベントとして合同文化祭や合同球技大会など、自分たち自身も楽しみながら交流を深め、地域全体で盛り上がろうという呼びかけもあり、地域にある複数の高校が連携・協力しての活動が実現できそうな感じを受けました。

